



# 紙の扉を開く

## 松本幸四郎

歌舞伎公演自粛の期間中、台本の棚の入れ替えをしました。ひと回り大きな本棚を調達して、目当てのものがすぐ見つかるように整頓したんです。初舞台からとってあってすごい数になっていたので、なんとか収めることができました。台本は自分がこれだけ役をいただいたという証拠ですので、何にも代えられない大事なものです。そして幾代にもわたって役者を支えてくれるものです。

劇場から上演用の台本をいただくのは初日の半月ほど前ですが、僕はふた月前の演目と役が決まった日から、古い台本を探し始めます。同じ演目を読んで少しでも早く準備を始めたいのです。

先輩に教えていただく時は先輩の使ってきた台本をお借りすることもありますが、教わったことは自前の台本に書き込みます。型として決まっていることも多いので、感じたこと、気付いたことを中心に書いていきます。興行が始まってからのアドバイスやダメ出しも記録します。

歌舞伎役者は自ら化粧して役の顔を作るんですが、例えば同じ赤でも鮮やかな紅を使う時もある。少しくすんだ紅にする時もある。そこで、僕はこれだと決めた色を台本の余白に指で擦っておくんです。次にはその色に倣えばいいので、これも紙だからこそできること。

台本には、その芝居をやっていた時間や空気が詰まっているのです。

本棚には受け継いだ台本もあります。八代目の祖父は全部覚えてしまうのか、ほとんど書き込みがありません。父・白鷺は細かく書いているのですが、何が書いてあるのかわからないものが多いですね。

一昨年、襲名披露の口上で「天に向かつて舞台に立ち続ける」と言いましたが、僕にとつての「天」は祖父であったり祖母であったり、教えていただいた先輩方。その方々を仰いで芸をお見せしたい気持ちなんです。見て下さい、少しは追いつきましたか、少しは上達しましたか、と。

舞台に立つことは自分を通してお客様に先人の創り上げてきたものをお見せすることだと思っていますし、本当にお芝



まつもと・こうしろう ●歌舞伎役者。1973年生れ。79年、三代目松本金太郎を襲名し初舞台。81年、七代目市川染五郎襲名。2018年、十代目松本幸四郎を襲名。端正な容姿と確かな演技力の華のある立役。荒事、時代物の家系だが女方もこなし、舞踊の名手。復活物や新作にも意欲的。世界初のオンライン配信歌舞伎「囃歌舞伎」を送り出す。屋号は高麗屋。

居が好きだから、自分が何をやるかより作品の役に立てればいい。表紙をめくると先人の時間や気配が立ち現れる台本のように、人の中にしかない芸を支える存在になれたらと思っています。

今は、歌舞伎をなくすわけにはいかなという想いのみです。四百年以上続いてきた歌舞伎には、この状況下にも生き抜く力があるはず。今の役者である自分たちが背中を押されているのを感じます。

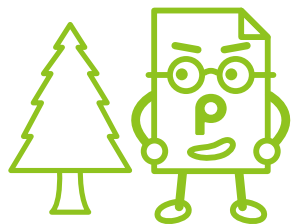
文化は、日常生活にあるものではないかと思うんです。明日は何しようかという時、映画、テレビ、読書、配信などの選択肢がある中、そこに歌舞伎が入り込めないか。世に新しい楽しみが誕生すれば、そこで歌舞伎は何ができるのか。

可能性は無限にあると信じます。木と紙で作られた美しい舞台空間、歴史ある伝統芸能としての歌舞伎を大切に伝えながら、歴史のない歌舞伎、まだ存在していない歌舞伎というものも探っています。

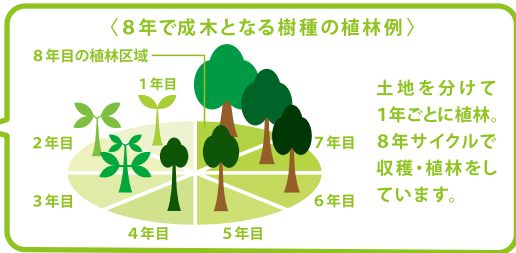
### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

#### 紙づくりは、「森想い」なんです。

まず植えて→育てて→伐ったら→また植える。植林で森をうまく循環させながら、紙をつくっているんだって。これらの森のほとんどは、もともと使われていない牧草地や荒れ地だった場所。製紙会社は、自然の森に迷惑をかけないように、森をつくりながら紙をつくっているんです。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。



<http://kamitsubu.com/>

今回は4月1日号です。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake